

長崎型原子爆弾の模型見直しの経緯と今後の取り組みについて

**問** 平成8年の開館時から長崎原爆資料館に常設展示されている長崎型原子爆弾の模型は、本来のものはアンテナの形態、設置方向及び色などが相違しているが、設置の経緯と今後の取り組みについて伺いたい。

**答** 模型の外見や色については、アメリカの国立公文書館の資料やアルバカーキ国立原子力博物館等に展示されている長崎型原子爆弾の模型を参考に作製した。その後の情報公開や調査研究などにより、外見の色やアンテナの形などについてさまざまな事実が明らかになってきた。現在、調査を進めており、確証が得られたら適切に対応したい。



長崎型原子爆弾の模型

電気自動車の普及促進「公用車のカーシェアリング」について

**問** CO2等削減に向けた取り組みが喫緊の課題となる中、電気自動車が目されている。市が公用車として使用している2台の電気自動車を、土・日・祝日の空き時間に市民に貸し出し、乗り心地や性能等を体感してもらい、普及促進へつなげる観点から、カーシェアリング手法を導入できないか。

**答** 電気自動車の公用車へのカーシェアリング導入については、公用車としての利用に支障がないかなど、管理運営面でのシステム化や利用者ニーズの把握など検証すべき課題を整理するとともに、まずは、先進自治体の取り組みや実態を調査したいと考えている。



公用車として使用している電気自動車

安心カード事業の取り組み状況について

**問** 安心カード事業について、現在の取り組み状況と、65歳未満の独居で持病がある方も配布の対象にできないか伺いたい。

**答** 昨年4月から独居高齢者の健康情報や緊急時連絡先、医療情報を容器に入れ、冷蔵庫に保管して救急搬送時に備える安心カード事業に取り組んでいる。自治会や民生委員の協力のもと、本年1月末現在で約1万900人にカードと容器を配布したが、市内の独居高齢者は約2万人と推計され、早急に全対象者に配布できるよう取り組みたい。65歳未満の独居で健康不安のある方については、容器を用意いただければカードの提供は可能である。

学校図書館司書配置事業について

**問** 学校図書館司書配置モデル事業の成果及び今後の配置計画について伺いたい。

**答** 事業成果としては、機能的で工夫を凝らした魅力的な図書館づくり、図

書館利用や貸出冊数、読書量の増加、学習活動への積極的な支援、市立図書館などの連携による図書資料と人材の有効活用などが挙げられる。今後は、中学校区ごとに18名の司書を配置する予定であるが、研修を通して司書のスキルアップを図るとともに、より一層の図書館教育の充実と活性化に努めたい。

ニート、ひきこもり、不登校の現状と対応について

**問** 増加するニート対策は今後の最優先課題であるが、原因の一つに高校中退があげられ、さかのぼると中学生の不登校やひきこもりがある。その現状と取り組みについて伺いたい。

**答** 全国でニートは約63万人、ひきこもりは約70万人で、小中学校の不登校児童生徒数は全国で約12万人、本市では434人となっている。本市としては、子どもたち、若者たちが置かれた様々な状況に応じ、担当課が専門的な対応を行っており、今後とも事業の周知を図り、関係各課が連携を深めて子どもたちや若者の自立を支援していきたい。